

「社会福祉基礎」外部講師の授業を行いました

テーマ「人間の尊厳と福祉社会の創造」

～福祉の理念とケアサービスの意義～

6月23日（木）2限、6月28日（火）6限に、3年生選択科目『社会福祉基礎』において、サンビレッジ国際医療福祉専門学校の大窪明美先生による授業を行いました。内容は『人間の尊厳と福祉社会の創造』です。3年2組の科目選択者16名が出席しました。その様子を紹介します。

6月23日の講義



6月23日（木）の授業では、大窪先生から講義を受けました。介護サービスの実際と、介護者としてどのような心構えと態度で利用者の方に接しているかについて、実際に介護サービスを利用していらっしゃる方への具体的な支援とそれによる利用者の変化について話をいただきました。

社会の高齢化に対応し、平成9年に「介護保険法」が制定され、平成12年4月1日から施行されました。それに伴って介護サービスが充実してきています。介護保険が制定される前は、入院はできるものの、介護者がいないために症状が改善されず、入院を続ける高齢者が多くいらっしゃいました。入院の長期化に伴い医療費が増大し社会保険費が増え続けてきました。そうした背景の下で介護保険が導入されたのです。

介護サービスが始まり、自己紹介や挨拶がうまく言えない失語症の方が言語聴覚士による正しい対応で症状が改善したり、認知症の方に適切な対応をすることで症状が劇的に改善した事例を、大窪先生は具体的な写真などを使ってお話くださいました。その上で、大窪先生は、福祉施設を利用される方に対する本当の自立支援とは「できるんだからやってください」という声かけではなく、「（利用者の方が）やりたいという気持ちにさせること」だと話されました。声かけを工夫することで、利用者が自ら動こうという気を起こさせることができる、と話してくださいました。

6月28日の講義

2日目の講義のテーマは、『自立支援はコミュニケーション』でした。リハビリ施設の利用者自

身が、自分で動こうという気になり、実際に自分の力で動こうとすることが究極の支援である、と大窪先生はまず話されました。そして、利用者の方の自立を支援する上で大切なのは、介護者のコミュニケーションであると教えてくださいました。「利用者本人が自発的にやってみようと思えるような声かけが大事です。たとえば椅子から自分で立ち上がることができるように導くには、『立ちましょう』と支持し利用者の体を持ち上げる声かけではなく、『立ちましょうか』と、利用者に行動を選択させる言葉かけが大切です。自分の意思で決めるように言葉がけをしていくのです。もし、椅子から立ち上がる時に介護者が抱き起こすなどして助けてしまったら、利用者の方は、その楽なことを覚えてしまい自ら立ち上がろうという気持ちがなくなってしまい、症状が改善していかなくなるのです。」



説明の後、2人ずつのペアを作り利用者への介護者の声かけの仕方について実習を行いました。2人のそれぞれが利用者役と介護者役になり、利用者の意思を引き出すにはどのような言葉がけをしたらよいのか実習しました。与えられた設定は、「利用者は、昨夜夕食をどこで、誰と摂り、何を食べたかを聞き出すこと」です。その時与えられた条件は、「利用者は質問に対し、言葉で答えない、身振りや手振りも使わないで、頭を縦や横に振ることと、表情でだけ意思表示をすること」でした。5分間実習し、その後で役割を交代してさらに5分間実習を行いました。



大窪先生は、実習を行った後で、ご自身の体験談を語られました。「失語症の方を初めて介護した時の困惑と感動を今でも忘れません。その方はテレビで年金の話題を見て、ご自身の年金や家族のことがとても不安になられ、それをなんとか伝えたいと思っていられました。言葉で伝えられないその方から「年金」の話題を引き出すまでに30分もかかりました。しかも、なかなか相手の方の関心がどこにあるのかがわからなくて、ついには五十音順に関心のある言葉の頭文字を

聴いていき、やっと「年金」の「ね」に行き当たったのです。その「ね」を探し出した時は2人で大喜びしたことが忘れられません。」

今回の講義のまとめとして、次のように話されました。「利用者の方は、自分が一人の人として尊敬されている、大切に向き合ってくれている、自分の気持ちを考えてくれている、関心をもってくれている、と介護者に感じた時に初めて、気持ちを伝えようと努力したくなるのです。介護者はそれをゆっくり聴いていくことが大切なのです。」

そして最後に、「福祉人として望まれる人物像」とは、「人の痛みを感じる感性を持っている人。人として対等だという福祉観を理解している人」だと教えていただきました。

授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

- ・大窪先生の講話を聞いて、自立支援はとても大切なことだとよくわかりました。「できない」と決めつけていては、できることもできないし、それに関わる人も「できないだろうからやっつけてあげる」のではなく、「ここまでできるだろうからサポートしよう」という、見方を変えて接することがとても大切だと思いました。
- ・介護者が、相手が伝えようとしていることを読み取ることは難しいと思います。時間をかけて会話をしたり、相手の気持ちをわかろうとしながら会話をすることが大切だと思いました。
- ・私は、今回の講話をきいて、介護とは利用者の方のお世話を何から何までお手伝いすることではなく、利用者の方が自ら望んだことをお手伝いして、利用者の方の自立を支えることだということがわかりました。
- ・思いやりの心や、ちょっとした心がけ、その人の気持ちを考えること、とてもたくさんのごとを学ばせていただきました。
- ・大窪先生のお話を聞いて、人の助けや介助があれば、人はちゃんと変われることができるようになりました。
- ・自分の周りにも高齢者の方がいらっしゃるので、これから関わっていく中で、今回聞かせていただいたことを生かしていきたいと思います。
- ・私は将来介護福祉士になりたいと考えています。今回の講義で、より一人一人を大切にできる介護福祉士になりたいと思いました。
- ・人は、自分の姿勢や態度によって相手が話す気をなくしたり、自分と反対な気持ちが相手に間違っって伝わってしまうことがあるということがわかりました。

➤ まとめ

介護というと、介護者が手取り足取り行動や動作を支えることが手厚い援助だと考えてしまいがちですが、それは本当の介護ではないことを学びました。究極の支援は、リハビリに取り組む方自身が**自分で動こうという気になり、実際に自分の力で動こうとすることである**、という教えに目を開かれる思いがしました。そして自室支援に導くためには、**利用者に行動を選択させる言葉かけを工夫し、自分の意思で決めるように言葉かけをしていくことの重要性を学ぶことができた**。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～